

令和5年度 日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立駒王中学校 教諭 梅原 利浩

1 派遣期日 令和5年11月4日（土）

2 派遣先 会場名 文教大学東京あだちキャンパス
所在地 東京都足立区花畑5丁目6番1号
<http://open.shonan.bunnkyo.ac.jp/~arai/>

3 研修内容

(1) テーマ

児童生徒の成長を支える発達支持的な生徒指導を目指して
～これからの不登校・いじめ・自殺問題等へ対応する生徒指導の在り方～

(2) 主な研修内容

① 生徒指導に関する公開討論会 「教育現場における生徒指導の実践方略」

- ・実践発表者：定野 司（文教大学客員教授、足立区教育委員会前教育長）
懸川 武史（群馬大学名誉教授）
山本 志織（さいたま市教育委員会主席指導主事）

② いじめ心理劇 「ある日、私の机だけが廊下に置かれていた・・・。」

- ・大学新聞社・ライセンスアカデミー Campus actor

③ 大会記念シンポジウム 「改めて、生徒指導における教育相談を問う」

- ・話題提供者：新井 肇（関西外国語大学教授）
藤川 章（文教大学非常勤講師）
金子恵美子（慶應義塾大学准教授）
山口 豊一（聖徳大学教授）
・指定討論者：八並 光俊（東京理科大学教授・日本生徒指導学会会長）

④ 大会記念フォーラム 「不登校・ひきこもりは心の問題にとどまるものではない」

- ・首 座：松田 素行（文教大学健康栄養学部教授）
・話題提供者：藤平 敦（日本大学文理学部教授）
八島 禎宏（作新学院小学部小学長）
・コーディネーター：新井 立夫（文教大学教授）

4 感想

(1) 派遣先の選定段階

先進校等調査派遣研修者として選出され、最初に困惑したのは派遣先を選定することであった。さまざまな文献やインターネット等において派遣先、とくに近隣の関東地方に位置する中学校を当たってみたが、年内に「生徒指導」の分野で発表会等を計画している学校はほとんど見られなかった。そこで、他の地方も視野に入れて派遣先を探しても、わずか8校だけに限られている状況であった。のちに、東京都のいくつかの中学校で「生徒指導」に関する発表会が予定されていることが分かったが、そのほとんどが1月以降の発表であり、研修報告書の提出には間に合わないことが分かった。

7月以降に、派遣先は研究発表がある学校だけでなく「講演会やシンポジウム等でも可である」ことを知りえたので、急いでネット等において再度調べ直し、やっと「日本生徒指導学会第24回東京あだち大会・関東支部会第14回研究会」の情報にたどり着くことができた次第である。

(2) 研究会の参加を終えて

今回参加できた研究会が全国規模のものであり、全日程が2日間にわたるものであったので、1日目の公開討論会等に絞って研修を進めることにした。以下に、とくに強く印象に残った内容を中心に感想を記述する。

一つ目は、今回の実践発表者や話題提供者の方々「生徒指導提要」の改訂に関する協力者会議において、座長等の中心的なメンバーであったということであった。

すなわち、それぞれの発表や提言を聴くことによって、「生徒指導提要」改訂に至る背景や中心的な部分についての理解の面で十分な一助につながった。前回の提要は、現場の教師の「経験や勘」や「そのときに応じて」対処するレベルのものであったが、今回は、「生徒指導の2軸3類4層構造」など多くの面で構造化することによって「基準を示す」というレベルに発展したものであるという説明が、とても分かりやすかった。

二つ目は、「生徒指導に関する公開討論会」の中の定野氏の発表である。

強く印象に残ったのは、足立区教育委員会教育長として勤務していた「足立区全体の取組」である。

- 1 学校を楽校にする
 - (1) チューリップシート（就学支援シート）…【全員が書く：幼稚園から小学校へ】
 - (2) 不登校児童生徒の早期発見、早期対応
 - (3) 登校支援GUIDEの配付・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【チャート化】
 - (4) 登校サポーター派遣、別室登校
 - (5) SC、SSWの派遣・・・・・・・・・・・・・【SCの勤務は、小学校週2日・中学校週3日】
 - (6) 特別支援教室 コミュニケーションの教室
 - (7) 中高連絡会議（高校中途退学対策）
 - (8) 夜間中学校への既卒者への再入学
- 2 足立区における「学びの多様化」
 - (1) 適応指導教室 チャレンジ学級（3か所）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【学校外】
 - (2) 特例家庭教室（校内型適応指導教室） あすテップ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【学校内】
 - (3) 居場所を兼ねた学習支援事業の日中利用
 - (4) 家庭学習支援事業（アウトリーチ支援）
 - (5) 「東京みらい中学校」学びの多様化学校（不登校特例校）の開設
- 3 足立区教育委員会のビジョン
「家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む」
- 4 既存の教育システムを進化させる
「変われ！私たち」→「学校に来るのがいいのか悪いのか」

令和4年度の児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果によれば、「不登校の小・中の総数」は、299,049人（前年度比22.1%増）に及んでいる。足立区においても、同年度の不登校生徒数は、小学校で371人、中学校で791、計1,162人を数えている。そこで、足立区教育委員会は、不登校を「個々の問題」ではなく、選ばれなくなった「既存の教育システムの問題」としてとらえ直し、区全体として『既存の教育システムを進化させる』ことを企画し、実践している点がとても勉強になった。文部科学省が提言した「誰一人取り残さない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）」をより具現化している点が素晴らしいと感じた。とくに、「SCの勤務がすべての小学校で週2日・中学校で週3日である」ことが示しているように、人的にもかなり手厚いサポートを行い、足立区全体で不登校対策を本気で進めていることが強く印象に残った。

三つ目は、大会記念シンポジウム「改めて、生徒指導における教育相談を問う」の新井氏の発表である。

学校現場においては、「生徒指導（指導的役割）」と「教育相談（カウンセリング的役割）」とを対立的にとらえがちであるが、生徒指導提要の改訂版が目指す「生徒指導」の目的は、児童生徒を「支える」ことであり、「教育相談」と全く同じものであるといっていよいという発表内容であった。つまり、「生徒指導」と「教育相談」が一体となって包括的な児童生徒支援体制の構築が必要となってくことを理論的に発表していたので、分かりやすかった。

最後に、今回の派遣研修において生徒指導提要（改訂版）について学んだり考えさせられたりしたことを、今後勤務校の校務会や生徒指導部員会での報告等を通して、伝達していきたい。